

豊岡中学校PTA成人教育部

伝えよう言葉の重みと思いやり
【身近にあることから命の尊さを考える】

はじめに

豊岡中学校は昭和22年に開校し、昭和60年に緑豊かな彩の森公園の隣の現在地に移転しました。学校教育目標の【 自立 協働 貢献 】を生徒が意識し、心がけ学校生活を送っています。

今年度、人権教育推進事業の指定校として、人権問題を学ぶにあたり、何が大切なのだろうと考えました。そして、「伝えよう言葉の重みと思いやり」をテーマに、「身近にあることから命の尊さを考える」を方針とし、学んだことを子や家族に伝えていけるような講座を実施いたしました。

【学習内容】

回	開催日	主催	講座名	講師	形式
1	6月29日	本校 PTA	開講式 「親が知っておきたい受験 制度の基礎の基礎」 「わが校の人権教育に ついて」	豊岡中学校 校長 北野 晃 先生 教頭 木元 常吉 先生	講話
2	7月13日	本校 PTA	命の重さを感じて 「普通救命講座」	埼玉西部消防局 入間消防署員	講話 実習
3	9月29日	講座 参加	人権啓発講座 「同和問題の解決を 目指して」	埼玉県県民生活部 人権・男女共同参画課 人権啓発講師 新井 茂登 氏	講話
4	10月28日	本校 PTA	「聴覚障害者のお話と手話 体験を通してコミュニケー ションの輪を広げよう」	入間市聴覚障害者の会 森田 秀子 氏	中止
5	12月12日	本校 PTA	「韓国の食を通して 異文化を知ろう」 閉講式	入間市ひまわり英語教 室主宰 韓国文化講師 宿輪 裕美 氏	講話
6	1月28日	講座 参加	人権問題講演会 「ワタシは一体ナニジン なんだろう」	数学者・大道芸人 ピーター・フランクフル氏	講話

開講式・第1回講座

6月29日(水)

参加者 16 名

講話

「親が知っておきたい受験制度の基礎の基礎」

「わが校の人権教育について」

講師

豊岡中学校 校長 北野 晃 先生

教頭 木元 常吉 先生

【目的】

- ・ 学校で実際に子どもたちが学んでいる人権教育を知り、家庭内、親子間での人権問題を話すきっかけをつかむ。
- ・ 親が不安になりがちな受験制度を理解することで、子どもへのフォローや、理解をしやすいとする。



【主な学習内容】

- ・ 実際の授業で行われているワークを例に人権学習を体験
- ・ 「自分も、他人も大切にできる」、人権感覚とは何か、また身につける方法
- ・ 一方的に教えるのではなく、生徒自らが気付けるような授業とは
- ・ 受験制度とは
- ・ 成績だけではない入試で評価されることなど

【感想】

- ・ 中学校でどのように人権教育が行われているか、知ることができた。
- ・ 人権については改めて考えさせられる良い機会になりました。子どもたちがどのように指導されているのか知ることができて、家庭でも話がしやすくなると思いました。
- ・ 教えるというよりは、気づかせるための教育ということが伝わりました。自分を大切にしつつ、他者を思いやれたら良いなと思います。

【学んだこと】

- ・ いつの時代も人権について学ぶことの大切さは同じだが、人権侵害になる行為などがとても複雑化している。(SNS などの普及で表立たないいいじめなどが多様化)
- ・ 堅苦しいイメージの言葉であるが、人権について考えることはとても大切なこと。
- ・ 自分に余裕を持つことも大事である。
- ・ 聞く、読むだけでなく、話し合いやワークを通じ自分たちで考えて気づきを得ることに重きを置いている。

第2回講座

7月13日(水)

参加者 16 名

講話 実習

命の重さを感じて「普通救命講座」

～AED 使用法と心肺蘇生法～

講師

埼玉西部消防局 入間消防署員

【目的】

- ・身近にあるようでどこにあるのか、どう使うのかわからない！を解消する。
- ・いざという時に動けるように、実際に体験をする。

【主な学習内容】

- ・なぜ AED を使うのか
- ・AED が置いてある場所
- ・AED の使用方法、周りへの声かけ



【感想】

- ・定期的に受けないといざという時には使用できないなと実感しました。
- ・初めて AED に実際触って、使い方を知ることができて良かったです。
- ・AED の場所などを確認したいと思います。
- ・とてもためになりました。AED が身近になりました。
- ・救急車到着までの間の処置がとても大切であることがわかり、勇気をもって今日学んだことが実践できるとよいなと思いました。

【学んだこと】

- ・AED の正しい使い方。
- ・心臓マッサージの力の入れ具合。
- ・緊急時に私たちができることは、周りの協力を経て、落ち着いて動くことが大事で、何ができるか分からないから関わらない、ではなく、何かできることがあるかもしれないと行動することが、命をつなぐ一歩になること。
- ・日常的に意識しないと AED の設置場所すら覚束ないので、定期的に家族などと情報を集め、話し合っておくことが大事。
- ・定期的に講習会などに参加することの大事さ。
- ・救命措置をすぐに行うことができれば、命を救える可能性が上がること。
- ・AED を使用しての救命措置はその後の生存率や、回復にも大きく影響する。

第3回講座 9月29日(木)

参加者 2名

人権啓発講座 第1回 同和問題

演題 人が人として尊ばれる社会を 「同和問題の解決を目指して」

講師 埼玉県県民生活部 人権・男女共同参画課 人権啓発講師 新井 茂登 氏

【目的】

- ・人権の基本を学び、長くはびこる同和問題の解決を目指す
- ・お互いの人権を尊重しながら共に生きる社会を実現する

【主な学習内容】

- ・人権について
- ・身近な人権課題（同和問題、新型コロナウイルス感染症による偏見や差別）
- ・人権問題を解決するために

【感想】

- ・今でも同和地区があることを知らなかった。
- ・結婚時などに、出身場所で差別を受けることも知らなかった。
- ・今まで同和問題の話を身近で聞いたことや、学んだことがなかったので、講座を受ける機会を得てよかったと思いました。
- ・相手を正しく理解し、自分のことのように相手を思いやることの大切さを学びました。
- ・知らなければいいわけではなく、正しく学ぶことで間違った知識を継承しないようにすることが同和問題の解決につながっていくことと理解しました。
- ・インターネットが普及したからこそその同和地区の情報や、同和問題を助長させるような動画があることに驚きました。
- ・つい最近でも同和問題解決に向けた条例が作られるなど、まだまだ問題が根強いことに悲しみを覚えました。

【学んだこと】

- ・どこで生まれ育とうとも、人権『人間として幸せに生きる権利』が誰にでもあり、それを侵害してはいけないこと。
- ・人権の出発点は家族の愛情を大事にすること。

第5回講座・閉講式

12月12日（月）

参加者 17 名

講話 「韓国食を通して異文化を知ろう」

講師 入間市ひまわり英語教室主宰 英語・韓国語・韓国文化講師

宿輪 裕美 氏

【目的】

- ・似ているようで全然違う文化を、身近な食を通して理解していく。
- ・正しく理解することで、差別や偏見をなくしていく。

【主な学習内容】

- ・韓国の食事マナー
- ・韓国の方とのコミュニケーション
- ・韓国料理の季節と行事
- ・違うことは素晴らしいこと

【感想】

- ・初めて知ることもあり、大変勉強になりました。国同士、難しい関係の時代ですが、元々歴史的にもつながりが深い地域なので、交流が深まればと思います。
- ・日本と似ている部分、全く違う部分を知ること、相手を理解するだけでなく、自分や日本を改めて見直す機会になるのだと思いました。
- ・食に関する情報がたくさんあり興味深い内容でした。韓国文化は日本に浸透していますが、知らないことが多くありました。自ら調べてみようと思います。

【学んだこと】

- ・国が違えば、作法も違うことを改めて認識した。
- ・食事では器を持たないことや初対面ではまず年齢を聞くことなど、日本ではタブーとされているマナーが韓国ではそうではないということ。
- ・韓国の食文化は五味五色を意識し、とても健康に気をつけている。
- ・外国にルーツを持つ子どもも増えており、その家庭、その国々によって文化が違うことを理解し、尊重することが大切である。



第6回講座 1月28日(土)

参加者 2名

入間市人権問題講演会

演題 「ワタシは一体ナニジンなんだろう」

講師 数学者・大道芸人 ピーター・フランクフル 氏

【目的】

- ・日本に住む外国人の人権を学ぶ。
- ・人権問題についての正しい理解と認識を深める。

【主な学習内容】

- ・お互いに尊重することの重要性
- ・人権尊重社会について

【感想】

- ・明るく優しい語り口に、ジャグリングも披露していただき、ピーターさんの人柄に惹かれるなか、意義ある時間を過ごすことができました。
- ・ユダヤ人だからと迫害された辛さ、苦しさをのりこえ、それでも世界の人々と友情や関係を作ろうとする行動力に驚きました。
- ・お父様の言葉「本当に大切なのは(モノやお金ではなく)頭と心」を大切にし、人と人の付き合いや対話を大事にしているのが素敵だなと思います。
- ・愛国心と国粋主義の話はとても分かりやすい説明で、ほかの色々なことにあてはめられることであり、自分の考えや思考が全てと思いがちな人たちにも、色んな人の話を聞き、語り合うことが大切だよと伝えていきたいと思います。

【学んだこと】

- ・子どものころにユダヤ人ということで同級生から差別を受けたが、自分自身が知らなかったことをなぜ同級生が知っていたのか、なぜ差別はなくなるのか、それは親から子どもに「あの子は〇〇よ」などと伝えているから。こうやって差別は残っていく。
- ・どこで生まれても、ナニジンであろうと、人は人でありお互いに尊重することが大事である。
- ・Keep your heart open. と聞き上手な対話をしていくと、人との縁が深くなる。

おわりに

令和4年度、豊岡中学校PTA成人教育部は人権教育推進事業の指定PTAとして活動するにあたり、人権をどのような角度から学んでゆくのが良いか、また、どのような講座ならPTA会員の皆さんに興味を持っていただけるか考えました。

そうして話し合った中、家族間や友人関係での、言葉のやり取りが希薄になってきているのだろうか、このコロナ禍で会えなくてもSNSなどでやり取りはできるが、それで正しく思いが伝わっているのだろうか、との思いから、「伝えよう言葉の重みと思いやり」をテーマに、また人権は遠くの物事ではないということから「身近にあることから命の尊さを考える」を方針として、講座選びを始めました。

第1回講座では、本校の教頭先生による「わが校の人権教育について」お話をしていただき、子どもたちが学んでいる人権教育を体験することで子どもと人権の話をするきっかけになりました。

第2回講座では体験型の「普通救命講座」を埼玉西部消防局入間消防署員の方々の協力のもと開催しました。参加者の方々と共に真剣にAEDの使い方や、命の大切さを学びました。

第3回講座は同和問題の講話を拝聴しました。どの地域にもまだまだ根強い同和問題があるけれど、解決に向けて学ぶことの大切さをひしひしと感じました。

第4回講座は聴覚障害者の方のお話を伺って手話を学ぶ予定でした。たくさんの方が参加予定でしたが、残念ながら中止となってしまいました。

第5回講座は韓国の方と国際結婚をされた講師の方が、お隣の国、韓国の似ているようで全然違う食文化をわかりやすく教えてくださいました。文化やマナーの違いを素敵なものと捉えると、とても豊かな世界が広がるのだと思いました。

第6回講座は異国の地に生きる外国人の人権問題の講話でした。自分のルーツを大切にしつつ、違うことを嫌がらず、楽しみ、人と人のつながりや対話を大切にすることが人生を豊かにすることと、実体験をもとにされるお話に感銘を受けました。

今回、こうして人権について学ぶ場を設ける機会を得たことで、人権というのは難しいこと、遠くのことではなく、身近なこと、隣人のこと、家族のことを考えることから始まるのだなと理解することができました。また、学んで終わりではなく、学び続けたり、学んだことを話し合ったり、伝えていくことがとても大切なのだということを知ることができた一年でした。

最後に、ご講話していただいた講師の皆さま、講座開催にあたりご指導いただきました社会教育課の方々、先生方、講座にご参加いただきましたPTA会員の皆さまに、心より感謝申し上げます。